



福祉見てある記³⁹

「グランガーデン熊本」

私たちはどんよりと雲が覆う梅雨の合間に、「グランガーデン熊本」を訪れました。近くを通る機会は何度かあったものの、建物に入ったことはありませんでした。地上12階建ての瀟洒でしっかりした建物は、ホテルキャッスル横という地の利を活かした場所に建っていました。迎えてくれたキューデン・グッドライフ熊本の営業担当チーフの奥 裕次さんにお話を伺い、建物も案内してもらいました。キューデン・グッドライフ熊本は、九州電力のグループ会社で、この介護付有料老人ホームの運営をおこなっています。



「グランガーデン熊本」の玄関を一步入ると、一流ホテルと見間違いそうな高い吹き抜けに迎えられます。その豪華なエントランスにお隣のホテルと間違っ入ってくる人が多いとか。一般居室143戸、介護居室40戸という建物はゆうに200人を超えるコミュニティです。

入居者のほとんどは熊本出身か熊本にゆかりのある人々で、さまざまなケースがあるものの、熊本の自宅をそのままにしてこのグランガーデン熊本に入居されている方もいるとのことでした。都市のワクワクする非日常的魅

力もあり、近くに歴史的な建造物もあり、豊かな自然にも触られることで、街中にあるシニアマンションとして、景観に優れた豪華な建物という以外にも交通、文化施設、スポーツ、買物等、さまざまな利便性があり、趣味、食事、セキュリティ面も充実しています。入居者はまじかに見える熊本城を朝の散策や運動に選んだり、近くの公園の花や緑を楽しんだり、坪井川に親しんだりもできます。また、日常の歩行圏の中に、デパートや商店街がすっぽり入っているため、街の息遣いをじかに感じることができます。



自立した入居者に快適で質の高い生活を確保するため、生活サービス課が各種イベントを企画したり、買物や病院への付き添いをしたりとさまざまな要望に応じているとのことでした。もっとも入居者の皆さんは外部講師の方にお越しいただき、自分たちでスポーツや趣味のサークルを楽しまれているとのことでした。また、月に2回映画の日には、作品を皆で鑑賞できるとのこと。ビリヤードのあるクラブルームや健康器具が置かれたエクササイズルームもあり、毎日の軽運動や健康管理にはとくに気を配られているとのことでした。3階の介護フロアでは定期的にリハビリを兼ねたレクリエーションも行われているとのことでした。介護居室では看護師や社会福

社士などのスタッフのサポートが整っているため、介護が必要になっても一般居室から介護居室への移り住みは一時利用などを経て、安心してできるようになっており、行き届いた環境は入居者のシニアライフを支えているようでした。

建物は当然バリアフリーとなっており、居室には一定時間、生活動作が感知されないと事務室に連絡が入る生活安全センサーも設置されているので安心して暮せます。またキッチンも含めオール電化仕様となっていました。ゲストルームもあるため、ご家族や知人の訪問にも対応できるようになっていました。ちょっと驚いたのは、エレベーター前に必ずソファが置かれており、エレベーターを待つ間も配慮されており、またエレベーター内にも腰を下ろせるイスが置かれ、すべての人に優しい作りになっていることでした。



食事は自宅のキッチンで作っても、また、4階のレストランの利用も可能で、このレストランは大きな窓から熊本城が展望できるようにテーブルが配置され、くつろいだ演出がなされていました。建物の中にはテナントとして、クリニックや美容室、ブティックなどが入っており、日常生活がスムーズに送れるようになっていました。

ホームの運営については入居者、スタッフの間で定期的に「運営懇談会」が開かれており、活発なコミュニケーションを心がけているとのことでした。



建物を案内していただきながら、人は老いに向き合ったとき、さまざまな人生経験を背負って生き抜いてきた、人生の達人として、自己実現の欲求を強く持つのではないだろうかと思いました。かつてお年寄りの豊かな経験と知恵を生かしながら、地域で互いに助け合う互助の機能が働く社会が存在していました。しかし、そこは同時に地縁、血縁に縛られ、個人のプライバシーも乏しい不自由な社会でもあったのです。だが今日の都市社会では自立した人々がお互い自由に選びあう人間関係が一般的となっています。気分も若く元気なニューシルバーにとって、老いの時間はむしろかっような自分の自己実現の時間となっているのではないのでしょうか。人里離れた自然の中で過ごすよりも都会に老いの準備を求める時代の心理に応えるこのようなシニアマンションの魅力に触れ、これからの選択肢のひとつになるかなと考えながら取材を終えたのでした。

(本研究所研究員 大野哲夫 社会心理学)

(本研究所研究員 長友敬一 倫理学)